

愛知サークル3月例会報告

2020年3月7日（土） むらさきかん 参加：5名

I 国語実践検討「あいしているから」（1年、3・4年）

前回に引き続き、同じ教材で別の場面を実践した2名の授業記録と映像を検討した。

- 「『はなす』は、鳥にとって、それはどういうことか。」について、追求していた。「はなす」は、やる意味がある言葉だ。深く穴をあけて、大問題と裏でつながり一点突破できる言葉だ。子どもはすぐに「空を自由にとべる」ことと、答えている。その発言を生かして、じゃあ、「自由じゃないってどういうこと」のようにして、自分の身に置き換えて自由を考えさせるなどするとよかった。深く穴をあけることがまだできていない。教材との出会いが大事。大問題が、追求の原動力である。
- 「二場面の愛は何？」という問題から、「どこからペットになったか。」に問題が移ったのはよかったのか。と、提案された。どこからペットになったのかは、そんなに重要ではない。教師が解釈をしっかりともっていないために、子どもの発言に対応できず振り回されてしまう。教師自身の解釈のルールに誘導してはいけないと考え、子どもの発言から問題を解決しようとするのは大切なことだが、解釈をしっかりとっていないと何をしようとしているのか分からなくなる。記録からは、大問題がどうなったのか分からない。大問題につながる核となる問題が全く出てこない。

II 「表現教材」の追求

○1年 紙版画「にらめっこ」

- ・色画用紙を使って、目や鼻・口・髪の毛などの形を切って貼ったのは、インクをつける前は分かりやすく、イメージがわきやすく良かった。ただ、色画用紙の厚みが薄いため、インクをつけると境目が分かりづらく、真っ黒になってしまった。手でちぎったことも、関係があるようだ。

○3年 紙版画「美しいチョウ」

- ・何を表現させたいのか。題名を先に考えさせるとよい。そして、お話をつくってから作品づくりに取り組ませるとよい。国語は、教材から発見させる。図工は、題材から発見させる。中身が大事なので、題材選びは大事だ。子どもに合う題材を選び、描きたいという思いをいっぱいにしてから、「じゃあ、描いてみようか。」と声をかける。

○4年 木版画「自画像」

- ・今の自分を言葉にして、ノートなどに書き出させるとよい。内面が出るようにしてやる手立てを講じるとよい。

○3年 柔軟体操

- ・体育を表現と考えるなら、どう美しく自分を表現するか。一つの表現として、美しさを追求した方がよい。憧れをもって、3週間ぐらいでやる。
- ・指示の出し方に問題がある。子どもが見えていないのは、致命的。